

組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	文化財課
職	課長
氏名	中川 智夫

組織の使命・役割	何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か
<p>本県の個性豊かな歴史と文化を物語る文化財を大切に保存するとともに、積極的に公開・活用を図り、さらに次世代に継承させていく。</p>	



組織の目標	使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値はどのような水準か					
(定性的目標)	何をどのような状態にしたいか					
<p>文化財の掘り起こしや調査研究を進めるほか、文化財を支える人材の養成・確保など保存伝承基盤の整備を図る。また、埋蔵文化財の発掘調査を促進し、調査成果の公開と活用を図る。</p> <p>具体的には、</p> <p>① 有形・無形文化財等の保存と活用を図る。</p> <p>② 埋蔵文化財発掘調査の促進と公開・活用を図る。</p> <p>③ 金沢城の調査研究の計画的推進による学術的価値の解明と情報発信を積極的に押し進める。</p>						
(定量的目標)	具体的な指標、目標値を設定する					
	目標とする成果指標	現行値	年(度)	目標値	年(度)	目標値の設定根拠(他県との比較など)
	① 国・県指定文化財件数(各年度末現在)	555 件	H24	570 件	H27	未指定文化財の調査や掘り起こしを行い、指定促進を図る。 (年間5件程度の指定)
	① 輪島漆芸技術研修所卒業生(累計)	748 人	H24	800 人	H27	重要無形文化財技術伝承者を養成し、伝統技術の保存・継承を図る。
	② 埋蔵文化財センター入館者数(年間)	17,947 人	H24	12,000 人	H27	石川県新長期構想(平成19年3月改定)



25年度に重点的に取り組むべき課題	左記の具体的な内容を記載する
① 有形文化財等の保存と活用	<p>ア 金沢城石川門などの老朽化が著しい有形文化財(建造物、美術工芸品等)や、伝統的建造物群保存地区については、保存修理事業を推進する。</p> <p>イ 史跡については、遺構等の復元整備を推進し、生きた学習の場、憩いの場として活用を図る。</p> <p>ウ 文化財に係る各種調査を推進し、歴史上、学術上の価値を明らかにし、文化財指定などを促進する。</p> <p>エ 地元の市や推進団体と連携し、世界遺産登録に向けて城下町金沢などの取組を進める。</p>
② 埋蔵文化財の公開・活用	<p>開発事業に伴う発掘調査を促進するとともに、広く県民が郷土の歴史や文化を学び、埋蔵文化財に対する関心と理解を深めるため、発掘成果を活用した企画展示、体験学習、講座、講演会などを開催する。</p>
③ 金沢城の調査研究の推進	<p>金沢城の保存と活用を図るため、絵図・文献、建造物、埋蔵文化財、石垣など伝統技術の総合的な調査研究及び収集資料のデジタル化を進めるとともに、研究紀要やパンフレットなどにより研究成果の積極的な情報発信を行う。</p>